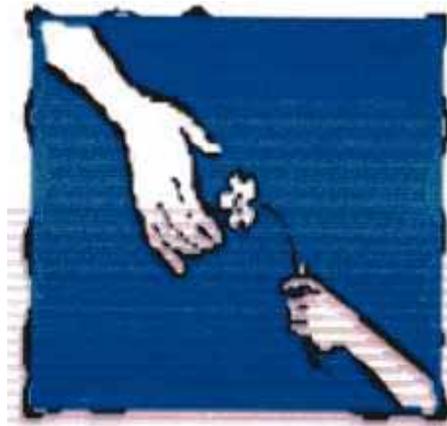


# スラムの子どもたちの識字教室

報 告

(2005年10月から2006年3月)



プロジェクト実行者

ボンベイ・レプロシー・プロジェクト

協力

「モンスーンと日光の教室」

後援

「光の音符」と「岡山の国立ハンセン病療養所」

## はじめに

非営利団体であるボンベイ・レプロシー・プロジェクト(以下、BLP)は、30年来、ハンセン病のために働いてきた。都市部においてハンセン病治療を専門にするかたわら、ボンベイだけでなく隣接する農村地域からの疾病問題をかかえた患者のために、診療照会センター及び出張診療所で診療を提供している。リハビリプログラムの一環として、BLPは障害のある患者に対して身体的リハビリテーションを行い、助けを必要としているハンセン病患者には社会経済的な社会復帰活動を行っている。その社会復帰活動の一部として、BLPは、識字プログラムを支援する特別プロジェクトを行っており、これによって、ボンベイの公立アクウォース(Acworth)ハンセン病病院の敷地内にある「モンスーンと日光の教室」で、約50 - 55人の子どもたちが公教育及び非公式教育の恩恵を受けている。(訳注：非公式教育は、公教育/学校教育以外の形態を指す)

## 教育プログラム

ハンセン病患者の子どもたち及びハンセン病に感染した子どもたちを含む全ての子どもたちは、このセンター(教室)で毎日午前10時から午後1時まで、非公式授業を受けている。この教室では、子どもたちに、リズム、詩、文字、数字を、絵カードを用いて教える。上級の子どもたちには、**ボンベイ・レプロシー・プロジェクトが寄贈したミシンを使って、洋裁も教えている。**子どもたちには、絵や工作、ゲームなども教えている。6歳以上の子どもたちは、公立学校の1年から5年に入学し、マハラシュートラ政府が推奨するカリキュラムに従って学校教育も受ける。毎日、教室が終わると、すべての子どもたちにバランスの取れた栄養のある昼食が提供される。

## 教材の提供

おもちゃや図表、掲示板などの教材が「モンスーンと日光の教室」に提供されている。レベルに応じた初等教育の本も、教室に寄付された。上級生には、色塗り帳やクレヨン、色鉛筆などの絵の道具が贈られた。公立学校に出席している全生徒に、新しい学校の制服一式と靴が贈られた。日本から送られた寄贈品や服、おもちゃ、また地域からの寄付品も、子どもたちに配られた。子どもたちに対するこれら物品の提供は、子どもたちの自尊心を高め、勉学に対する興味を増している。

## スラムの子どもたちの健康診断

BLPの医療スタッフが、定期的に、この教室に出席している子どもたち全員に健康診断を行い、必要に応じて投薬を行った。ほとんどの子どもたちは、基本的な衛生状態を保っており、何人かの子どもたちは体重も増えた。子どもたちの中には、呼吸器系によく問題を起こす子どもがいる。ビタミン不足、寄生虫感染、胃腸感染症もわずかだが、子ども

たちの中にみられる。臨床的な問題をともなう何人かの子どもたちには、近くの医科大学を紹介し、二次診療及び健康管理が施された。

#### 過去6ヶ月間における健康診断の結果

2005年10月の結果	子どもの数	2006年3月の結果	子どもの数
呼吸器感染症	7	呼吸器感染症	15
皮膚疾患	1	皮膚疾患	2
耳鼻咽喉系統の疾患	0	耳鼻咽喉系統の疾患	0
胃腸疾患	1	胃腸疾患	4
眼疾患	0	眼疾患	0
心臓血管系	0	心臓血管系	0
寄生虫感染	2	寄生虫感染	4
ビタミン不足	10	ビタミン不足	3
小さな傷	1	小さな傷	2

この教室は、子どもたちに基礎教育を施し、識字教育や自己覚醒を促すことに重点をおくと同時に、絵画や工作、洋裁、縫製などの技能を育て、幼い心に創造性を促進することにも焦点をおいている。

子どもたちは、勉強を学び教育を受けるだけでなく、音楽やダンスを学ぶ他の教育課程にも参加し、学び、実践するよう動機付けがされている。ある女の子たちは創造性があり、自分たちの想像力を使って自作の詩を創作した。また年長の子どもたちの中には、自ら外で仕事を見つけたものがあり、技術を与えてくれた「識字教育プロジェクト」の支援を非常に喜んでくれている。数人の子どもたちが新たにこの教室に参加したため、全ての子どもたちについて基本情報を集めて、生徒全員のデータを更新して、光の音符に提出した。



医療スタッフによる子どもたちの健康診断



熱心に勉強している教室の子どもたち



西村さんと岡山からのチームが、教室の子どもたちを指導している様子



昼食をとっている子どもたちと西村さん